

3 月度 例会 個人 山行報告書		報告者	吉川浩行	参加 メンバー	CL:竹内 SL:芦田 藤田、渡辺(勝)、村越 江頭、吉川(記)
		報告日	04 / 12		
山 域	鈴鹿山系	山行日	06年 03月 19日 (日)		
山 名	藤原岳				
山行目的	花の山を登る		コースタイム (天候: 天気図記号)		

配布先
集会:12
山行: 1
リーダー
原紙: 集会担当者

<p>ルート図 (地図を見て正確に)</p> <p>2.5 万分の 1 地図: 竜ヶ岳</p>	<p>3/19 晴れ時々曇り (北日本では大荒れの予報)</p> <p>07:00 本社正門前発 08:30 JA-P 発 09:20 4合目(小休止) 09:37 6合目通過 10:00 8合目(小休止) 10:41 避難小屋前通過 10:58 藤原岳頂上着 11:15 避難小屋着(大休止) 11:42 避難小屋発 12:04 8合目前通過(分岐) 12:09 7合目通過 12:25 4合目(小休止) 12:51 鳥居前着 13:00 JA-P 着 13:20 JA-P 発 13:50 幸楽の湯着 14:50 幸楽の湯発 15:50 本社正門前着(解散)</p>
---	---

山行報告 前夜までの雨とは打って代わり、頂の北側に少し重そうな雲が残るも、日に照らされる斜面を見て「よし、これなら行けそう」身支度もそこそこに駐車場を後にする。まず聖宝寺と雑木林を通り抜け、2~4合目までは沢沿いの植林帯を突き進む。林間では風も少なく額に汗ばむ程となり4合目で一本。(皆それぞれ上着を脱ぐなど調整、気温は9 だ) 植林帯を抜けると急に視界が開け、春霞に包まれた西藤原の町並みが見えた。この辺りから木々の間に柔らかな日差しが差し込むようになり、健気な福寿草と囀る小鳥が私たちを暖かく出迎えてくれた。(後に思えば、ここでしっかり花を観察しとけば...)その後、6-7合目と順調に歩を進めるも、時折聞こえる風音は次第に強くなり、小休止(2本目)の8合目では水分の補給程度で歩き出す。これを過ぎると(前夜の雨と雪解けの影響か)道はぬかるみ、足元がままならない。やがてガレ場に差し掛り、時折つばみが膨らんだ福寿草が足元に顔を覗かせる。足の踏み場に困ると同時に、少し癒される瞬間であった。風に押されつつ、そうこうするうちに避難小屋前に到着するも、全員一致で頂上を目指し、笹原を通り抜け登頂成功。やがて天候は雪混じりの暴風となり、立っているのもままならない。通り掛りの方に写真撮影頂き、避難小屋へ一気に駆け込む。小屋に入ると30名程度の先客で大賑わいだ。部屋中立ち込めるラウンの香りにそられつつここで大休止。しばし登頂記に目を向け、我々も一筆(福寿草の挿絵など)するなど楽しい時が流れた。

11:42 下山開始。途中、ぬかるみを避けるように雪上を選んで進み、時折落とし穴(私だけ?)を作りつつ、8合目に到着。ここで大貝戸道へ進み一気に4合目まで戻り一本とった。その後順調に戻り、鳥居前で安全に下山できたことに対し合掌。(竹内先輩へ今後もこの様な企画をお願いします)

【総括】午前の柔らかな春の光景と午後の厳しい冬景色を芦田先輩の軽快なリードとフットワークで味わえた、盛りだくさんの山行でした。

リーダー所見 気になっていた雨も上がり、麓では鶯の鳴き声が聞こえて、春を感じながらの山行と思いつつ歩き始めたが、八合目から雪が見え始め、頂上付近では春の嵐が吹き雪もチラチラと降りだして、一瞬、冬山を感じさせる状況となった。それでも小屋付近には福寿草の蕾がふくらみ、今にも咲こうかと待っているようだった。残雪の中に花を見ながら、軽快なペースで全員無事に下山することができました。



(頂上にて)背中を押し付ける風圧は大変なものでした。

確認
(リーダー)
竹
06/03/22
内
作成
(報告者)
吉
06/03/21
川